



# 双塔

カトリック新潟教会

2019年1月  
No. 368

明けましておめでとうございます  
(神の名によって祝福されますように)

主任司祭 ラウール・バラデス

毎年の初め、ミサの第一朗読は民数記から読まれます。フランシスコ会訳は以下の通りです。

主があなたを祝福し守ってくださいますように。

主があなたの上にみ顔を輝かせ、顧みてくださいますように。

主があなたにみ顔を向け、平安を与えてくださいますように。(6:24-26)

今年は何年か変わりますから、平成最後の新年となります。しかし、時代が変わっても、わたしたち人間がつねに求めていることは変わらないと思います。それは平和と平和を可能にする幸せなのです。ことばが違って、新年のあいさつを通して同じ願いは交わされます。スペイン語の場合、「FELIZ AÑO NUEVO」といい、「幸せな新年」を祈ります。

信仰者はこの幸せと平和は、人間に与えられる天からの贈り物と実感しています。天地万物を無から創造しただけではなく、つねにこれを保ち、その生成、変化を導く神こそがそれをお与えになるのです。

人間は、時の流れ、社会の変動、健康の衰え、悪、苦しみ、そして、死の前では、無力です。しかし、それらにまけない幸せと平和を、心の奥底から願っています。というのは自分自身でそれらを獲得できないことを体験しているからです。

聖書の民、イスラエルは長い年月をかけて、人間の無力さと、心底願っている幸せと平和は、神が与えてくださることを学び悟りました。そして、それらを詩編と他の祈りの中で表しています。上記の「祭司による祝福」と言われる祈禱文は優れた例の一つです。

祭司は民衆のために危害からの守護、赦しの恵み、いつくしみと平安を願いながら、民衆の上に三回も神の名（主＝ヤーウェ、神がモーセに教えられたご自身の名）を唱えます。こういった人間を満たすものは神からしか与えられないと繰り返し訴えています。

神の啓示を先にいただいたイスラエルの人々は人間の力を頼らず、神に寄りすがると、今もわたしたちに教えています。彼らのように、毎日の生活の中で神の配慮とその恵みを読み取れるように願っています。

この新しい一年で毎日、神の名によって祝福されますようにと願っています。それは、すべての出来事とすべての事柄において主がともにいてくださることなのです。

主イエスもそう約束して下さったではありませんか。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20)